

助成金等公募情報

A-STEP 平成27年度 第一回公募

国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)

A-STEPでは制度の見直しを行い、平成27年度公募から以下の支援タイプの募集を実施します。
第一回公募では、ステージⅡ、ステージⅢについて研究開発課題を募集します。

ステージ	ステージⅠ ※今回は募集対象外です。		ステージⅡ	ステージⅢ	
	タイプ	産業ニーズ対応	戦略テーマ重点	シーズ育成	NexTEP-B
目的	産業界に共通する技術課題解決のための基盤的研究開発を支援	JST戦略創造事業等の成果を基にテーマを設定した研究開発を支援	顕在化したシーズの実用性検証から、中核技術の構築を目指した本格的な産学共同研究開発までを支援	研究開発型企業による、大学等の研究成果に基づく研究シーズの実用化開発を支援	企業ニーズを踏まえた、企業による大学等の研究成果に基づく研究シーズの実用化開発を支援
申請者	研究者	研究者と企業	研究者と企業	企業(と研究者)	企業(と研究者)
研究開発費	~2,500万円/年	~5,000万円/年	2,000万円 ~5億円	~3億円	~15億円
研究開発期間	2~5年	最長6年	2~6年	最長5年	原則10年以下
備考	グラント		マッチングファンド	マッチングファンド 成果実施	開発成功時 全額年賦返済 不成功時10%返済 成果実施

※以下のタイプについては平成26年度をもって新規募集は終了いたしました。(平成27年度以降の公募はございません。)
探索タイプ、シーズ顕在化タイプ、起業挑戦タイプ(若手起業育成含む)、実用化挑戦タイプ(創案開発)

※H27年度新規公募から、ハイリスク挑戦タイプは、シーズ育成タイプに統合しました。

■公募期間 ステージⅡ:平成27年5月13日(水)~6月30日(火)正午 ステージⅢ:平成27年5月13日(水)~7月31日(金)正午
■ご照会先 国立研究開発法人 科学技術振興機構 A-STEP 募集担当窓口 Tel: 03-5214-8994 Fax: 03-5214-8999

今後のイベント情報

イノベーション・ジャパン2015

-大学見本市-

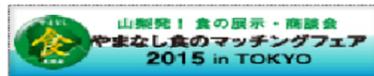
会 期: 2015年8月27日(木)~8月28日(金)
開催時間: 8/27(木) 9:30~17:30
8/28(金) 10:00~17:00

会 場: 東京ビッグサイト西展示棟 西1ホール
主 催: 科学技術振興機構(JST)

概 要: 全国の大学等の技術シーズを一堂に集め、企業に紹介し、産学連携の推進・技術移転のきっかけとなる場を提供することにより、産業活動が活性化されることを目指す国内最大規模の産学連携マッチングイベントです。

山梨大学 個別技術相談会

山梨大学研究者が、企業が抱えている技術的な課題・問題の相談に応じます!! お気軽にご相談ください。【参加無料】
日 時: 平成27年8月6日(木) 12:30~16:30 予定
場 所: 羽村市生涯学習センターゆとろぎ (東京都羽村市緑ヶ丘1-11-5)



【入場無料】

日 時: 2015年7月30日(木)
10:00~17:00
場 所: 京王プラザホテル 新宿
(東京都新宿区西新宿2-2-1)
内 容: 出展者の販路の開拓・拡大、仕入企業の商品発掘の機会として開催する、農・食品関連事業の商談会です。

【発行 2015年6月11日】



国立大学法人 山梨大学
社会連携・知財管理センター
新技術情報クラブ事務局
〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL: 055-220-8754 FAX: 055-220-8757
E-mail: renkei-as@yamanashi.ac.jp
URL: http://sangaku.yamanashi.ac.jp/

新技術情報クラブ
CLUB NEWS

NO. 1

Jun 2015

国立大学法人 山梨大学

大学TOPICS

『林真理子特別講演会』を開催しました!

平成27年5月27日(水)、本学甲府東キャンパスA2-21教室において、山梨県出身の作家である林 真理子氏をお招きし、『林 真理子特別講演会 ~小説を書く時間~』を開催しました。この講演会は、山梨大学全学同窓会の主催行事として実施されたもので、同窓生や学生、教職員、一般の方を含め、約300人が聴講しました。林氏は自身の生い立ちや小説の書き方などを講演され「筆が進まずにつらいと感じることもあるが、小説を書くことは楽しくてたまらない。この仕事ができることに幸せ。」と話していました。



林 真理子氏

満員の会場

クリスタル科学研究センターの長尾雅則助教らの論文が "Most Cited Articles in 2014 from Vol. 82 (2013)" に選ばれました!

本学クリスタル科学研究センター長尾雅則助教らの論文が、日本物理学会刊行の英論文誌『Journal of the Physical Society of Japan (JPSJ)』の「Most Cited Articles in 2014 from Vol. 82 (2013)」に選ばれました。これは、JPSJが2013年に発行したVol.82の論文中で引用数が多い上位10本の論文を掲示したものであり、本研究が注目されたことを示しています。対象となった論文のタイトルと概要は以下の通りです。

タイトル: "Structural Analysis and Superconducting Properties of F-Substituted NdOBiS2 Single Crystals" published in J. Phys. Soc. Jpn., Vol. 82, No. 11, p. 113701 (2013)
概要: 単結晶育成の難しい複合アニオン化合物超伝導体であるNdO(F)BiS2の単結晶育成に初めて成功し、その単結晶を用いて構造解析や超伝導特性について評価を行いました。



表彰状

本学卒業生の奥水精一氏が日本人初の“ウイスキー殿堂入り”

昭和48年に本学工学部発酵生産学科(現 生命環境学部生命工学科)を卒業し、現在サントリースピリッツ株式会社の名誉チーフブレンダーである奥水精一氏が、パラグラフ・パブリッシング社発行のウイスキー専門誌「ウイスキーマガジン」が認定する「Hall of Fame(ホール・オブ・フェイム)」を受賞し、日本人として初めて“ウイスキー殿堂入り”を果たしました。「Hall of Fame」は、2004年から毎年発表されている賞で、Scotland(スコットランド)、America(アメリカ)、Rest of World(世界のその他の地域)の3つの部門があり、2014年までに22組(23名)が受賞しています。今回、奥水氏は「Rest of World」部門での受賞となり、イギリス・ロンドンにおいて3月19日(木)に授賞式が行われました。受賞した奥水氏は「この度、図らずもウイスキーの殿堂入りの栄に浴することができました。ウイスキーは一人のブレンダーの力だけで出来るものではありません。長年ウイスキーづくりに関わってきた多くの作り手たちの総力を結集した結果であり、今回の表彰も近年様々な世界的コンペティションで高評価を得てきた日本のウイスキーづくりそのもの、品質へのこだわりが評価されたものだと思います。今後も創業以来目指してきたウイスキーづくりの軸を守り、ぶれることなく魅力的な製品を世界中のファンにお届けしていきたいと思っています。」と述べています。 Hall of Fame ホームページ: <http://halloffame.whiskymag.com/>



Hall of Fame の認定証

奥水氏紹介: <http://halloffame.whiskymag.com/seiichi-koshimizu.html>

大学TOPICS (つづき)

国際公募「ライフサイエンスおよび宇宙医学分野の国際宇宙ステーション利用実験テーマ」に選定されました！

平成27年4月28日(火)、JAXA(宇宙航空研究開発機構)より、国際宇宙ステーション利用実験の国際公募について、本学生命環境学部生命工学科の若山照彦教授、若山清香特任助教らのテーマが、平成28年～平成29年頃の宇宙実験実施候補に選定されたことが発表されました。選定されたテーマは「Early mammalian embryogenesis under microgravity in space(微小重力環境下での哺乳類初期胚の発生能について)」で、凍結したマウス初期胚を国際宇宙ステーションに運んで培養し、胚が無重力状態や宇宙放射線を浴びても正常に発育できるのかを調査し、将来人類や家畜が宇宙で子供を作ることが可能なのか明らかにするものです。本研究は明治大学 長嶋比呂志教授、東京医科歯科大学 石野史敏教授らとの共同研究です。

山梨大学特許最新情報

特許最新情報についてはクラブ会員のみへの提供となっておりますので、本掲載では非公開とさせていただきます。

産学官連携TOPICS

「個別技術相談会」を開催しました！

4月23日(木)に第21回個別技術相談会を開催いたしました。今回は㈱山梨中央銀行・山梨中銀経営コンサルティング(株)・八王子商工会議所より協力を得て、本学にて開催し、本学研究者と社会連携コーディネータによる面談を行いました。穏やかな日中で、東京からお越しの企業様は、大学周辺の景色を大変気に入られたようでした。



技術相談会での面談風景

COC平成26年度「事業成果発表会」を行いました！

山梨大学では、平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択された「山梨ブランドの食と美しい里づくりに向けた実践的人材の育成」事業に取り組んでいますが、平成26年度事業のまとめとして「事業成果発表会」を3月23日13:00よりベルクラシックにて開催致しました。当日は、自治体・企業・各種団体の関係者、一般市民、本学教職員・学生のほか、県外大学等から100名近くの参加がありました。前田学長の挨拶、北村副センター長による本年度の事業概要の説明の後、大学COC事業の3つの柱である教育、研究(11件の教育研究プロジェクト)、社会貢献について、各担当の先生方より成果報告の要約が発表されました。その後のポスターセッションでは、教育、11件の研究、社会貢献のそれぞれへ詳細の報告と質疑について、参加者を交えて活発な討議がおこなわれました。



ポスターセッションの様子

コーディネーターによる【研究者紹介】

生命環境学部 環境科学科 准教授 小林 拓 (こばやし ひろし)

小林先生の研究のキーワードは「微粒子のキラキラ」です。大気中の浮遊物(エアロゾル)や海中の植物プランクトンなどは、当たった光を飛び散らせ、キラキラさせます。この現象は散乱と呼ばれますが、太陽から届いた光を大気エアロゾルが散乱することにより、地球温暖化など気候に影響を与えています。この散乱現象を利用して大気エアロゾルの特性を調べたり、その影響を評価する研究がされています。また、海色リモートセンシングと呼ばれる海中の植物プランクトンや赤潮、土砂の流入による懸濁(けんたく)(混ざり合っている状態)を人工衛星を使用して調査する研究を行っています。この研究のため、南極地域観測隊に隊員として2度参加し、南極の海と大気を観測しました。個々の粒子の形状の違いによる光の変化を検知するセンサーを搭載し、黄砂を区分して計測できる「偏光光散乱式粒子計測器」を県内の企業と共同で開発しました。今後は観測の国際的なネットワークの強化やコンピュータシミュレーションとの連携を進め、黄砂の気候影響だけでなく海洋生態系への影響も評価していきたいとのこと。 (記:服部コーディネータ)



小林先生と南極で使用した光散乱式粒子計測器

産学官連携TOPICS、イベント活動ほか報告

「水素・燃料電池技術支援室」を開設しました！

山梨大は、県、やまなし産業支援機構と連携し6月1日、民間企業に技術支援などをし研究成果の実用化を目指す「水素・燃料電池技術支援室」を開設しました。支援室は燃料電池の材料や部品関連のノウハウを生かして技術支援をし、県内企業の水素・燃料電池関連事業への参入を促し、将来的には県外からの企業誘致やベンチャー創出も目指します。



水素・燃料電池技術支援室の看板除幕式

アカデミックサロン(第6回)を開催しました！

第6回アカデミックサロンを平成27年4月17日(金)午後4時から甲府駅北口「CAFE風土」にて開催しました。今回はものづくりの話題とし、工学部機械工学科の園家先生から「溶射コーティング技術による高性能化(耐熱、耐摩耗、耐食)」と題し溶射の概要から応用事例までの話を、同学部同学科の浮田先生から「3Dプリンターが革新するヘルスケア」と題し微細加工と微細流体工学を駆使した微量血液分析デバイスの開発についてプレゼンテーションを戴きました。午後6時以降は第2部として、お弁当と地元ワインを賞味しながらの打ち解けたひと時となり、あっと言う間の3時間半でした。出席は過去最高の24人となり盛況でした。(スペース的にも限界でした。)これを機に産学官の交流の輪が大きく広がって行って欲しいと思います。また、次回(第7回)は6月を予定していますが、先生と出席者との双方向性をより高めるため、従来とは違ったプレゼン形式を考えています。お楽しみに！



園家先生(左)と浮田先生(右)

山梨大学の広報誌を配付させて戴きました！

会員の皆様に、山梨大学広報「ヴァイン」March2015Vol.25および山梨大学2016大学案内(GUIDE BOOK2016)を送付させて戴きました。大学広報「ヴァイン」は、年3回(3月、8月、12月)発行され、研究者を紹介する「人物発掘」のほか授業やサークルの紹介もあります。送付した「ヴァイン」March2015Vol.25の「人物発掘」では、第6回アカデミックサロンで講師をお願いした工学部の園家教授が紹介されています。また、山梨大学ホームページの受験生向けページに同様のコーナー「梨大倶楽部」がありますので、是非ご覧になって下さい。
http://www4.yamanashi.ac.jp/modules/nashidai_club/index.php
大学案内は、学長メッセージから始まり、学部や大学生活を中心に大学を紹介しており、毎年春に発行されます。これらの大学の広報誌を今後も送付し、山梨大学をより知り、より身近に感じて貰えればと思っております。



大学広報「ヴァイン」
March2015Vol.25